

ルーガンビルは今日も雨だった

天国の島バヌアツ金環日食旅行記？

辻村幸子

なぜバヌアツか

来年（1999年）8月にヨーロッパから中東を通りインドで終わる皆既日食があるため、今年8月と来年の2月の金環日食は忘れられたような感じがあるが、自他共に認める日食ハンターとしてはもちろんパスするはずがない。アンティグアから帰ってすぐ今年の8月はどこに行くか調べ始めた。今回の日食は多く海上を通るので意外に選択の幅は少なく、マレー半島・ニューブリテン島・バヌアツの大きく3カ所に絞られた。マレー半島は行きやすいけど日食の条件が悪いし、ニューブリテン島は日食の条件は最高だけど移動に時間がかかり休暇の問題がある、とすれば残りはバヌアツだ。日食が午後になるのがちょっと引かかったがこの時期バヌアツは比較的天候が安定してるのと、日本からのアクセスが意外によく（しかしこれは後でとんでもないしっぺ返しを食うことになる）移動にかかる時間が少なくてすむ、ホテルで観測が可能とよい条件がそろっている。バヌアツでも中心線の通過するマレクラ (Malekula) 島ノルスブ (Norsup) は、宿泊の可能な所がないこととバヌアツの首都ポートビラからの航空便が少ないのでやめにして、中心線からちょっとはずれるけどホテルがあって航空便が多いバヌアツ第2の町、エスピリトゥ・サント (Espiritu Santo) 島ルーガンビル (Luganville) に行くことにした。そして、今回は金環日食だしそれほど予約には苦労しないだろうと思っていたが、これは大きな間違いだった。

基本は8日間とし、仕事の都合で休暇が取れない人と関西方面の人のために6日間と閑空発着のコースを組んだのだが、ホテルは問題なくとれたが航空便が思うようにいかない。どのコースも国際線の1部がキャンセル待ち、国内線にいたっては予約便が二転三転する。8月11日に国際線はすべてクリアされたが、8日間コースのサント島から帰る便がまだ確定せず、出発当日になって決まるかどうかという状況になってし

まった。

成田は出発したものの 8月19日（水）

この日もいつもと同じように午前中残った仕事を片づけ、職場の同僚たちにあいさつをして成田に向かった。そしていつものように何ということもなく成田を出発するつもりだった。空港についてこの旅行の手配をお願いしていたパシフィックツアーシステムの担当の近藤さんが「実は・・・」と言って近づいてきた時にこれは何かあったなと思った。前々からバヌアツ国内線の予約便が二転三転したのでそっちの関係でトラブルかと思っていたが、近藤さんの持っているFAXのコピーの"12delay"の文字が目がはいった。何ということかヌーメアからポートビラまで飛ぶ便が12時間遅れるというのだ。この区間が12時間遅れるとサント島に入るのが順調にいつても日食前日の21日（予定では20日）、しかも悪いことは重なるもので21日のポートビラサント島間はすべてキャンセル待ちでこの時点で取れる便は22日（日食当日）の朝1番の便になる、さらにこれは今日午後4時に入ったFAXだったので時差の関係で現地のオフィスが閉まっていて現時点では何もできない……。リハーサルどころか日食当日にならないとサント島に渡れない、朝1番の便といっても今までの状況を考えるとこれだってあてにならない、もしかしたら日食は見られないかもしれない、まさしく目の前が真っ暗になった。とにかく今は一歩でも目的地に近づくことだ。まず、予定になかったヌーメアでの現地ガイドをお願いしてフライトの状況を見ながら航空会社と交渉していく、とりあえず現地にはこちらの希望は1分でも早くサント島に渡りたいことを連絡してもらうことにして、白紙になってしまった日程で8日間コース4名と6日間コース3名はとりあえず成田を出発した。こうしてバヌアツ金環日食ツアーは不安がいっぱいな状態が始まった。

思いがけないニューカレドニア 8月20日(木)

ヌーメアにつきさっそく現地のエージェントと相談する。こちらとしては日食のためには遅くとも21日にはサント島に渡りたいが、ヌーメア-ポートピラ間は他の航空会社の便はないので12時間遅れのバヌアツ航空を利用するしかない、そうするとポートピラ-サント島間が通常の便では21日ではとれていないのでチャーターも含めて交渉してもらうことにした。また、出発が真夜中すぎなので昼間滞在できるホテルと朝食、夕食はバヌアツ航空に用意してもらい、ヌーメア観光をすることになった。ホテルはニューカレドニアの国際空港、トントウータ空港そばのトントウータホテル、空港から車で5分とかからないところだった。ひと休みして朝食後、時間があるのでヌーメアの中心地ココティエ広場まで行くことにした。町までの道路は普通の2車線だったが、車の通行量が少なく信号もないので時速100km近いスピードで飛ばしていく。トントウータホテルからヌーメアまで50kmはあるが飛ばしていくから50分位で着いてしまう。スリル満点の50分間だった。降ろしてもらったのと同じ場所に18時30分に迎えに来てもらうことにせず、ニューカレドニア民族博物館へ向かった。ユニークなデザインのものが多く、バヌアツに関する展示も数多くあって、なかなか楽しめる博物館だった。事前学習という意味ではない機会だ。後はお土産屋さんを探しながら町をぶらぶら歩いたりアイスクリームを食べたり思いがけないヌーメア観光を楽しんだ。しかし、ヌーメアは店の閉まるのが早く、日が落ちるとすぐに終わりにするらしくだんだんやっている店が少なくなっていく。見るところもないので早めに集合場所に着いたらもう寒くてたまらない。仕方がないので近くのショッピングセンターへ行くがここもほとんどのお店は終わっていて、まさに寒さをしのぐだけということになってしまった。時間になり集合場所へ行くことそれらしきタクシーはあるが運転手がない。暇があって星が見えているとついそちらに目がいってしまう人種の集まりなので星を見ながら待つことになった。頭上にはアンタレス、椰子の葉陰には南十字とケンタウルス $\alpha \cdot \beta$ が見える。

街のと真ん中のわりにはたくさんの星が見えていた。そうしているうちにもう1台のタクシーと運転手が現れホテルに戻った。帰る途中の車内からも天の川がはっきり見えていて、バヌアツではもっと見えるのだろうと思った。

ホテルに戻ったところで私あてにFAXが届いていた。内容はポートピラ到着後の日程で、グループが2つに分かれることになるがサント島へ行く便も21日のフライトがとれたということだった！後半の3名がリハーサルの時間に間に合わないがここまででは齟齬はいってられない。これで日食前日にサント島に行けることになりほっとしたところで夕食だ。今日はメンバーの室伏さんの〇〇回目の誕生日なので、特別にパースティ・ケーキをお願いしてささやかだがお祝いをした。サント島でお祝いができればもっとよかったんだけど・・・。

12時間遅れのバヌアツ航空に乗るために午後11時にホテルを出る。ホテルのバスでピストン輸送するのだが、待っている間もつい星を見てしまう。時間があるので双眼鏡まで出してしまった。きょしちょう座のM104、小マゼランなどを見ているうちバスが来たので空港へ向かった。チェックインも出国もすんなりいったが、待合室でバヌアツ航空の機体はと探してみるがどうしても見当たらない。あるのはコンチネンタル航空のもの一機だけだ。6番搭乗口からと搭乗券にはあるのでその辺で待っている。

いざ、バヌアツへ 8月21日(金)

フランス語で搭乗開始のアナウンスがあったようなので、搭乗券には搭乗開始00:40となっているけどちょっと早いなと思って荷物を持っていこうとしたら一番に並んでいた大越さんが違うと言われて戻ってきた。これはグアム行きだと言う。フランス語圏に行くといつも思うが何でそんなに英語に対してこだわりを持っているんだろうと思う。現実をもっと認識してくれないかなと思うことがたびたびある。そういえばトントウータホテルでも、紅茶かコーヒーが聞かれたのがフランス語で5回ぐらい聞かれてわからず、6回目

にやっと英語で聞いてくれたことがあった。グアム行き搭乗口カウンターの様子からするとまだ乗り込んでない人がいるようだ。4人ぐらい行方不明らしい。係員がそばの免税店のお客をしらみつぶしにあたっていたら、まだ買い物をしていたようだ。搭乗券を見ない客も不注意だが、国際空港で英語のアナウンスをしないのも不親切だ。さて、コンチネンタル航空機がグアムへ向け飛び立っていったらもうここには待っている機体はない。ほんとに飛ぶのか不安になっていたら着陸する飛行機がある。バヌアツ航空機だ！定刻に10分遅れて午前1時20分、ポートピラへ向け離陸した。ヌーメアからポートピラまでは約1時間のフライトだ。やっとの思いで乗った飛行機だが食事をして入国カードを書いているうちにあっさり着いてしまった。ここに至るまでの道のりのなんと遠かったことか。今ごろはもうサント島にいるはずだったのと思いつつ入国審査へと向かう。入国審査はあっけなく通ったが税関検査がなかなか厳しそうである。荷物は必ず開けて調べている。事前に機材リストを作りバヌアツの税関へ送り判を押したもののコピーを用意して通訳を室伏さんに頼みカウンターへいくと、なんとそこには日本から送った書類の本物がありそれと私のコピーを照らし合わせて同じと確認した検査官は私たち7人をフリーパスで通してくれた。こういう場合事前の準備がまったく役に立たない場合も多いのだが、バヌアツではこれに関してはきちんと手続きがされていたのには感激した。

通関の後現地手配旅行会社のサウスパシフィックツアーの方にホテルメラネシアンポートピラへ案内してもらおう。ここでさらに明日（本当は今日）以降の日程の説明を受ける。ポートピラーサント間も21日出発でOK、帰りの便も予定通りということで一安心。しかし、8日間コースは出発が6時。つまりこのホテルにチェックインしたのが午前3時過ぎなので3時間も滞在しないことになる！もうすでに36時間近く横になって寝ていない私はかえって寝たら起きられなくなりそうで、借りてきたNECモバイルギアに向かって金環日食の報告書を打ち込んでいた。

昨日（今日？）ポートピラに着いたときも小雨が降っていたが、今朝もしとしと雨が降っていた。もちろん日食の日の天気も心配したが、それよりもまずポートピラからサント島までの便が飛ぶかどうか心配だった。何しろバヌアツ国内線はすべて有視界飛行のプロペラ機だからだ。空港についてチェックインを済ませ、乗り込んだ機体が離陸するとやっとサント島にいくんだと実感した。しかし、小さい飛行機だとはわかっていただけで実際乗ってみると本当に小さい。機内アナウンスは機長が後ろを振り向いて自分でやっている。座席数を数えると17席あった。副操縦士の席がいたのでその気になれば18人かな。椅子も背もたれが低くてお世辞にも座り心地のいいものではない。ツインオッターのプロペラ機だからうるさいしゆれるして普通ならとても寝られないとは思うけど、今度ばかりはさすがに寝てしまった。気がつくと左手にルーガンビルの町が見える。空港から出迎えのタクシーに乗り込みホテルサントへ向かう。

ホテルサントに着いたところで閑空出発の山口さん父子の出迎えを受ける。ポートピラで待ち合わせるはずが、ほんとの現地集合になってしまった。ホテルサントにチェックインして休む間もなく観測地を探す。ホテルの庭でできれば一番だが、ここは木が多くてできなくはないが視界が少し狭い。また、ホテルの前の道路の斜め反対側にサッカー場がありここにしようかとも思ったが、ギャラリーに囲まれそうで結局ホテルサントの中庭で観測することにした。空港に着いたときはべったり曇っていたのがこの頃から晴れ間が多くなりリハーサルができそうである。しかしさすがに疲れているので休みたいというのが本音だった。「これじゃリハーサルやんなきゃいけない」と大越さんらしくないせりふまで飛び出してくる。観測地も決まったししかたないからリハーサルやるかとあきらめ（？）かけたころからどうも雲行きが怪しくなってきた。太陽が顔を出さないのならやってもしかたないし、さすがに疲れているのでどうしてもという気力もない。すでに到着しているメンバーで今夜と明日の日程を決め昼食後解散、自由行動とした。私は後発グループが2時こ

ろにはここに着くはずなのでロビーで待つことにしたがなかなか到着しない。またフライトキャンセルかとかやきもきしていたら2時30分ごろやっと到着した。直行便のはずが途中2カ所寄り道をしてきたのだ。滑走路のないところへ降りたので緊急事態が心配したそうだ。とにかく無事全員サント島へくることができた。日本を出てから45時間、遠い道のりだった。ここでの朝食のパウチャーが今朝の分があるので風過ぎになってしまったが、ホテルのほうで簡単な食事を用意してくれた。(先発隊は朝食としてすでに済ませていた)それを中庭の東屋で食べながら今後の打合せをする。先発隊は本当ならリハーサル真っ最中というところなのだが、雨がかなり降っていたので完全な休養タイムになっていた。打ち合わせ終了後さすがに私も疲れていたものでシャワーをあびてすぐ寝てしまった。夕食の時間になり平井さんに起こされて目が覚めた。実は平井さんと同室の場合必ず私が平井さんを起こすことになるのだが今度ばかりは起こされてしまった。この夜初めてメンバー全員がそろった食事となった。

日食当日 8月22日(土)

朝の天気は雲が多いながらも回復しそうな雲行きだった。日食は午後になるので朝食後平井さんとホテル回りを散歩しにいった。海沿いをぶらぶら歩いていく。太陽が出ていると海の色がとてもきれいになる。市場がやっていたのでそちらにいった。野菜が多く並べられていたが、みかん(外見はオレンジそっくり、食べてみるとみかんと同じ)が1個20バツだったので買ってみた。そうやっているうちに雲は見る見る少なくなっていく。これなら日食は大丈夫だと思っていた。

準備も整い第1接触が近づくにしがってまた雲行きがおかしくなってきた。あっという間に靄空が少なくなり第1接触は雲の中だった。それでも時々欠けた太陽が雲間に見え隠れしていたのが、そのうち雲に隠されたまま出てこなくなってしまう。しかも雨まで降ってくる。どうすることもできないまま第2、3接触が過ぎていってしまった。食分が進むにつれ暗くなっていったのは雲のせいだけではないと思うが、皆既

日食のときのように劇的な変化はなく、いつもとちょっと暗さが違うかなという程度のものであった。いつもなら第3接触が終わったらたいい片づけ始めるのだが今回はどういうわけか誰も片づけ始めない。欠けた太陽をもう1度だけ見たいと第4接触まで粘るが、みんなの願いもむなしく1度も太陽を見ずに第4接触をむかえた。終わった後はビールで乾杯をした。みんな明るくふるまってはいるが、「次の日食は・・・」ということばが誰からもでてこない。みんな言葉には出さないものの見られなかったショックは相当大きかったようだ。

この日、夕方から天候が回復し夜には満天の星空になった。星を見ないかとのお誘いを受けたが、さすがに3日間の徹夜がひびいて申し訳ないがお断りした。でも、ホテルのバルコニーで少しの間だけ見た頭上にかかる天の川は見事だった。

サント島観光 8月23日(日)

日食が終われば我々は本当の観光客である。この日は・・・(後のことまで書いているとどこまで長くなるかわからないので以下省略)。

バナアツはとてもいい思い出をたくさん作ってくれた。人が優しい、治安がいい、食べ物おいしい、思わず泳ぎたくなるようなきれいな海、晴れば満天の星などなど足掛け6日間の滞在だったが存分に楽しんできた。日食をきっかけにバナアツのいいところをたくさん体験できてよかったと思う。

バナアツはまさにこの世の楽園、天国の島。だから、ニュー・カレドニアが天国に1番近い島なのか。

面倒な通訳を引き受けてくれたメンバーの室伏さん、私たちのような特殊な旅行の手配を嫌な顔一つせず聞いてくれたパシフィックツアーシステムズの近藤氏、何とか21日にはサント島に行かせてくれたなど現地での手配をきめ細かくやっていただいたサウスパシフィックツアーの鷹野氏始めスタッフの皆さん、ホテルサントのスタッフの皆さん、他お世話になったバナアツの皆さんに感謝をこめて。